



CSO Development Effectiveness

CSOの開発効果

今田 克司
CSOネットワーク
共同事業責任者
CIVICUS事務局次長



2008年アクラ会議の 市民社会にとってのポイント



- パートナー国の(民主的)オーナーシップ能力強化(13項)。

ドナー国は、開発に携わるすべての開発アクター(議会、中央および地方政府、CSO、研究機関、メディア、民間セクター)の能力強化につとめ、開発政策や国の開発目標における援助の役割についての対話においてこれらが積極的な役割を担うための支援を惜しまない。

- CSOを独自の開発アクターとして認識(20項)

a) 市民社会組織(CSO)の開発努力は、政府や民間セクターの取り組みを補完するものであり、私たちは、CSO自体を独自の開発アクターと見なし、今後連携を深めていく。
c) CSOと協力し、CSOの開発に対する貢献を最大化できるような環境を提供する。

開発効果とは？



- 「ドナーによる援助」効果論議の枠組みを広げる。
- 単なる技術論としての援助改革から、人権、社会正義、ジェンダーの平等など、より根本的な開発 이슈に議論をフォーカスさせる。
- CSOを含めた多様な開発アクターの取り組みを一定の指標で評価する枠組みを模索する。
- さまざまな議論が混在しており、共通の理解を得るにはいたっていない。



オープン・フォーラム総会



- <http://www.cso-effectiveness.org/>
- AAA20項を根拠に、CSOが力量を最大限発揮できるような基本原則と環境整備を提唱
- 第1回総会：イスタンブール（2010年9/28-30）
- 第2回総会：シエムリアップ（2011年6/28-30）



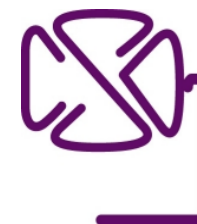
イスタンブールCSO開発効果基本原則



- ①人権と社会正義を尊重し、促進する。
- ②ジェンダー平等と公平を実現し、女性や少女の権利擁護を促進する。
- ③人々のエンパワメント、民主的オーナーシップ、参加を中心にすえる。
- ④環境持続性を推進する。
- ⑤透明性を確保し、説明責任を果たす。
- ⑥公平なパートナーシップと団結を追求する。
- ⑦知識を創出、共有し、相互の学びにコミットする。
- ⑧持続的変化への実現に寄与する。



シエムリアップ・コンセンサス



開発効果基本原則に加え、

- CSOの開発効果を高めるためのガイドライン
- CSOの開発効果促進のための政策環境整備に関する提言

などを盛り込んだ国際枠組み、シエムリアップ・コンセンサスを採択

⇒ 釜山閣僚級会合でのエンドースメントを目指す。